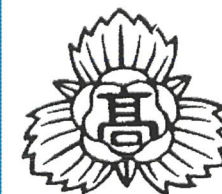


令和6年度 第2,3回進路志望調査 集計結果



進路ニュース

第103号

令和7年
2月27日
発行
寒河江高等学校
進路指導課

現在志望している進路

進学志望者の分野別内訳

			1 年次		2 年次	
			2 回	3 回	2 回	3 回
進 学	4 年 制 大 学	国立大学	115	111	115	108
		公立大学	32	32	26	28
		国公立大学計	147	143	141	136
		私立大学	16	17	27	27
		合 計	163	160	168	163
	準大学		0	0	1	1
	短 期 大 学	国立短期大学	0	0	0	0
		公立短期大学	2	3	1	1
		私立短期大学	0	0	0	0
		合 計	2	3	1	1
就 職	各種専門・専修学校		3	4	1	1
	進学合計		168	167	171	166
	公 務 員	国家公務員	0	0	0	0
		地方公務員	2	2	1	0
		公務員計	2	2	1	0
	民 間	県外	0	0	1	0
		県内	0	1	0	0
		自営・家業	0	0	0	0
		民間計	0	1	1	0
	就職合計		2	3	2	0

		1 年次		2 年次	
		2 回	3 回	2 回	3 回
①	人文科学	29	30	25	21
②	外国語	4	4	4	3
③	社会科学	15	21	28	35
④	教員養成	26	23	20	16
⑤	生活科学	3	2	0	1
⑥	芸術	6	6	13	13
⑦	理	11	15	16	16
⑧	工	19	16	17	15
⑨	医（医学部医学科）	6	2	0	0
⑩	歯	1	0	1	1
⑪	薬	5	5	3	3
⑫	保健衛生（医療・看護系など）	34	35	32	31
⑬	農・水産	3	4	6	6
⑭	その他	6	4	6	5
	計	168	167	171	166

学力に裏打ちされた実践力とは？

吉田 健

「二〇二二年東大・京大で一番読まれた本」という帯広告に乗せられ、國分功一郎氏の著「暇と退屈の倫理学」を手にとった。

長きにわたり遊動生活を行ってきた人類が、一万年ほど前に定住生活を強いられるようになったことで、人間は退屈するようになったと著者は言っている。遊動生活では移動のたびに新しい環境に適応しなければならず、新しいキャンプ地で人は五感を研ぎ澄まし、水・食料の確保や危険回避などのために、人の持つ優れた探索能力・情報処理能力を最大限発揮していた。しかし、定住者がいつも見る変わらぬ風景は、感覚を刺激する力を次第に失わせる。そのため、人類はその高い情報処理能力を持て余すことになり、退屈を回避する必要に迫られるようになったというのである。定住民は物理的な空間を移動しない。だから自分たちの心理的な空間を拡大し、複雑化し、その中を「移動」することで、持てる能力を適度に働かせる。つまり、「退屈を回避する場面を用意することは、定住生活を維持する重要な条件であるとともに、それはまた、その後の人類史の異質な展開をもたらす原動力として働いてきたのである」。いわゆる「文明」の発生である、とも述べている。

また、その前段にはこうもある。資本主義の全面展開によって、少なくとも先進国の人々は裕福になった。そして暇を得た。だが、暇を得た人々は、その暇をどう使ってよいのか分からない。何が楽しいのか分からない。自分の好きなことが何なのか分からない。そこに資本主義がつけこむ。文化産業が、既成の楽しみ、産業の都合のよい楽しみを人々に提供する。かつては労働者の労働力が搾取されていると盛んに言われた。いまでは、むしろ労働者の暇が搾取されている。高度情報化社会という言葉が死語となるほどに情報化が進み、インターネットが普及した現在、この暇の搾取は資本主義を牽引する大きな力である。

一月一八日・一九日に、高三生から履修している教育課程に対応した初めての大学入学共通テストが実施されました。新課程に移行しましたが、共通テストの問題作成方針に変更はなく「知識・技能を活用し、思考力、判断力、表現力を問う」「各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視する」という基本的な考え方に則った出題のようでした。大学ごとの個別試験（前期）は、二月二五日から実施されます。各大学がどのような受験生を望んでいるかは、各大学HPの入学者の受入方針（アドミSSION・ポリシー）にあります。例えば、山形大学は、「高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われた基礎学力を備え、主体的に学習や研究に打ち込むための三つのC（Challenge：挑戦意欲、Cooperation：協働意欲、Contribution：社会貢献意欲）を持つ人を受け入れます」とあります。「三つのC」にのみ目がいつてしまいがちですが、「基礎学力を備え」とあるので、すなわち、「学力に裏打ちされた三つのC（実践力）を持つ人」となるでしょう。一・二年生の皆さんは、受験までに大学から受け入れられる人になっていなければなりません。「学力に裏打ちされた実践力」とはどういうものなのか、どうすれば身に付けられるのか、をしっかりと考えて欲しいと思います。

暇があり（もしくは暇があると思ひ込み）、その退屈を回避するために、生徒の皆さんは何をしているでしょうか。それは本当に自分のやりたいことなのではなく、そう思い込まされているだけで、暇の搾取被害にあっているのかもしれない。高校卒業後の自分、十年後の自分を思い浮かべながら、日々の生活を送って欲しいと願っています。暇と退屈を埋める自分の好きなことは勉強でもいいのです。大学入試のためにだけに学習するものではありませんが、日々の学習が大学入試に対応できるものとなるよう意識してください。生徒の皆さんの健闘を期待します！

二〇二五年度の共通テストについて

進路指導課長 道上琢磨

今年度の大学入学共通テストは新学習指導要領に対応し、出題科目の再編や試験時間の延長、新教科の追加など大きな変更が多数あった。「数学」「地歴・公民」で科目構成が大きく見直され、新教科「情報」が追加されて七教科二十一科目となった。「国語」では試験時間が八十分から九十分へと拡大、同様に「数学②」では六十分から七十分へ変更された。「理科」はこれまでのように「理科①」「理科②」で時間を分けて、一つの試験時間にまとめて実施された。より長時間の試験となり、受験生の負担はますます大きくなった印象がある。

各教科科目の平均点を見ると、「化学」が難化したが今回は得点調整が行われるほどではなかった。注目されていた新教科「情報」の難易度はさほど高くなく、全国平均点は約七十点であった。今年度は受験生の「情報」の影響は限定的であったと思われるが、今後の難易度の変化や各大学ごとの取り扱いについては引き続き注視していかねばならない。今回で五回目の実施となった共通テストであったが、「思考力・判断力・表現力」を問う傾向に大きな変化はなく、知識を活用して多くの資料を読み解いて必要な情報を抽出・整理して適切な解を導く力が必要となる。これを限られた短い時間で行うには、かなりの訓練が不可欠となってくる。頭の良し悪しだけでなく、精神的な強さも持ち合わせなければとてもやり切ることはできないだろう。

共通テストを利用しない年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）の急拡大もあり、共通テストを受験する者も様々である。既に進路決定しているが受験する者、共通テストを利用した総合型・学校推薦型選抜へ出願している者、一般選抜を主眼としここまで準備を進めてきた者。既に合格を決めているために手を抜いてしまったりリラスクスして受験できる人もいれば、絶対に失敗できないと背水の陣で臨む人もいる。一昔前と異なり、近年は色々な受験生が色々な想いでこの共通テストに向かう状況になっている。例えばどんな選抜方式で進学したとしても、その先では同じ大学の大学生となりまた共に学んでいく。共通テストへの取り組みの差がいずれ圧倒的な基礎力の差に繋がり打ちひしがれたりせぬよう、この共通テストで求められている力を在学中にしっかりと高めてほしい。そのくらい共通テストへの取り組みは大変であり、学ぶことも多く秘められているのだ。

総合型選抜で「探究活動」が評価される!! くちよこつと山大理学部の話

山形大学理学部の総合型選抜Ⅰの出願資格・出願要件が、令和七年度の募集から次のように変わりました。変更点は『学内外において、理学（数学・理科・データサイエンス）に関する探究活動に取り組んだ者』という要件が加わりました。選抜は、探究活動レポート・エントリーシート・調査書によって行われます。第一次選抜の方法は、提出された調査書を参考にし、エントリーシート及び探究活動レポートの内容を評価します。（配点は一〇〇点）書類審査のみで、受験に行く必要はありません。そして、第二次選抜は、口頭試問を含む面接です。（配点は一〇〇点）

山形大学理学部のように、近年、探究活動を評価する総合型選抜を行う大学が増えています。大学によって名称は違いますが、どの大学も一次審査では高校での探究活動の成果を評価し、面接で探究活動の内容に関する質疑応答が行われます。

では、なぜ今探究活動が注目されているのでしょうか？理由としては「予測不能な社会の変化（技術革新・グローバル化・人口減少）」に対応していくために必要な基礎学力と自主的な学習意欲、そしてチャレンジ精神と自己表現力を入試選抜で評価しようとしているからです。みなさんは、どのような意識をもって探究活動に取り組んでいますか？

大学では、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち、社会の要請に対し、独創性と柔軟性をもって対応し、社会の課題解決に挑むことができる素養を持った人材を求めているのです。

探究活動で
「サクラサク」
かもじゃ



寒河江高校 MT（メイフラワertime）の紹介

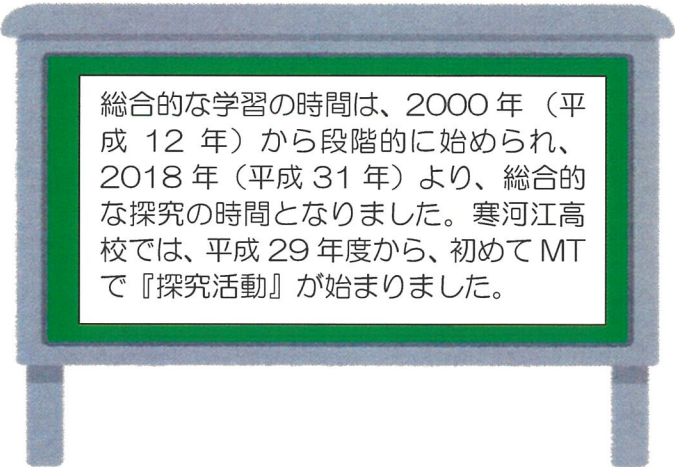
本校では、各年次に「総合的な探究の時間 MT（メイフラワertime：通称エムティー）」を実施しています。メイフラワーとは、本校の校章にもある山査子の英語表記です。

◎MTの活動内容について◎

一年次は「MT基礎」で、学期毎に様々な活動に取り組みます。一学期は、自分の将来を見つめて自己探究を行います。二年後の進路決定をゴールとし、課題や問題点を探っていく活動を行います。二学期は、地域探究活動を行います。地域の課題を自分達で見つけ、グループで課題解決に取り組みます。三学期は、二年次の「MT探究」に向けて、自分のテーマ設定を行います。

二年次は「MT探究」で、一年次に決めたテーマ設定毎にグループに分かれ、協働的に年間を通して探究活動を行います。実際に外部との連携を行い、本やウェブサイトでは得られない生の情報に触れることができます。そして、二学期に中間発表会、三学期に最終発表会が行われます。

三年次は「MT発展」で、二年次の活動を踏まえて自己探究を深めます。いよいよ進路決定が間近に迫り、MTの時間は、志望理由書を作成したり、自分の志望する大学について詳しく調べたり、ディベート等を行ったりします。



総合的な学習の時間は、2000年（平成12年）から段階的に始められ、2018年（平成31年）より、総合的な探究の時間となりました。寒河江高校では、平成29年度から、初めてMTで『探究活動』が始まりました。

一年次MT

十一月十四日、本校の各教室を会場として一年次MT基礎探究発表会が行われた。一年次においては二学期より地域に係るテーマを掲げ、A人文社会・語学・歴史、B経済・地域創造、C教育・スポーツ・芸術、D看護・医療・福祉、E生物・農学・栄養、F化学・環境・地学、G情報・工学の七つの分野に分かれて地域の身近な課題について調査・研究を行っている。当日はそれぞれの分野から選ばれた二四グループが発表を行った。参観した先生方と聴講した生徒たちの投票から、「フローラ活性化計画(教育・スポーツ・芸術)」「左沢線の本数を増やすには(情報・工学・数学)」「方言で寒河江をPRしよう(人文社会・語学・歴史)」の三テーマが優秀賞に選ばれた。近年生徒による探究活動は進んでおり、調べ学習から、考え方やプランをどう社会に広めていけるかがカギとなってきた。これからの生徒の主体的な取り組みに期待したい。



二年次MT

一月三十日、本校体育館にて二年次MT探究発表会が行われた。各分野の五四グループとゲスト発表三グループ(谷地高校)が、約一年間をかけて探究してきた成果を発表した。各グループとも高校生ならではの着眼点から探究テーマを設定し、試行錯誤しながら発表会の日を迎えた。今年度は西村山地域広域連携協議会の支援などもあり、外部連携の充実が進み、一般参観三十二名、保護者参観二十名もの参観があり、本校探究活動に対する関心と期待の高さをうかがい知ることができた。特に、投票の結果一位となった「多文化共生の鍵となるのは『やさしい日本語』なのではないか」では、地域企業に勤務するベトナム人の方々を招いての餅つき大会を開いた。また、二位の「麻雀で地域活性」では、フローラ寒河江において地域の高齢者とマージャンを通じた交流会を二回開催した。いずれも高校生を起点に地域の交流促進に貢献することができるといふ地域貢献の可能性を示す大きな成果であった。次年度以降も地域社会との連携を充実させながら、寒高生ならではの探究活動の充実を期待したい。

3年次 今昔物語

～進路希望調査をプレイバック！～

1 現在志望している進路

			2022年	2023年
			1 年	2 年
進 学	4 年 制 大 学	国立大学	140	130
		公立大学	35	28
		国公立大学計	175	158
		私立大学	10	20
		合 計	185	178
	準大学		0	0
	短 期 大 学	国立短期大学	1	0
		公立短期大学	2	4
		私立短期大学	0	2
		合 計	3	6
	各種専門・専修学校		3	4
	進学合計		191	188
就 職	公 務 員	国家公務員	0	0
		地方公務員	2	2
		公務員計	2	2
	民 間	県外	1	0
		県内	0	0
		自営・家業	0	0
		民間計	1	0
就職合計		3	2	

2 進学志望者の分野別内訳

		2022年	2023年
		1年	2年
①	人文科学	29	30
②	外国語	8	8
③	社会科学	25	20
④	教員養成	21	21
⑤	生活科学	1	0
⑥	芸術	8	5
⑦	理	15	15
⑧	工	29	32
⑨	医（医学部医学科）	1	2
⑩	歯	2	1
⑪	薬	3	2
⑫	保健衛生（医療・看護系など）	35	34
⑬	農・水産	9	9
⑭	その他	5	9
	計	191	188

3年次の進路希望調査、3年間の高校生活でどう変わったでしょう？

いざ！ 出陣！！

一月十七日、大学入学共通テストへ向けた出陣式が行われました。相澤校長・吉田教頭・道上進路指導課長・渡邊三次主任・生徒会長が激励の言葉を送り、三年次は真剣な面持ちで耳を傾けていました。有志激励では、高橋教務情報課長・山崎二年次主任・阿部一年次主任による餅つきのパフォーマンスに緊張が和らいだ三年次。教職員のビデオレターに笑顔を見せ、三年次担任団のマツケンサンバと心のこもったエールに、本番に向けての士気が高まりました。



国立大学

大学名（学部）		推薦合格	前期		後期		計	
			今年出願	昨年出願	今年出願	昨年出願	今年出願	昨年出願
山形	人文	2	4	5		2	4	7
	地教	6	7	2	4	0	11	2
	理		2	1	1		3	1
	医看	2	2	0	1	0	3	
	医医		1				1	
	農	2	2	2		0	2	2
	工	7	8	2	14	9	22	11
	工(フ)	2	3			1	3	1
	社創	1	1				1	
計		22	30	12	20	12	50	24
北海道								
室蘭工業								
北見工業				1	1	2	1	3
北海道教札幌								
北海道教函館			1	1	1	1	2	2
北海道教釧路			1	1	3	1	4	2
北海道教岩見沢								
北海道教旭川								
帯広畜産								
弘前			2	3	5	1	7	4
岩手		1	1	2	1	1	2	3
東北			4	1			4	1
宮城教育		1	1			2	1	2
秋田		2	3	2	5	9	8	11
福島		1	4	2	9	4	13	6
茨城		1		1	1	1	1	2
筑波								
宇都宮			2				2	
群馬								
埼玉					2		2	
千葉								
電気通信			1				1	
東京農工					1		1	
新潟		4	9	3	1		10	
富山			1	1			1	3
金沢			1	1			1	1
静岡			1				1	1
大阪				1				1
奈良女子			1				1	
鳥取				1		1		2
山口				1				1
計		32	63	34	50	35	113	69

公立大学

大学名（学部）		推薦合格	前期		後期		中期		計	
			今年出願	昨年出願	今年出願	昨年出願	今年出願	昨年出願	今年出願	昨年出願
保健医療	看護	3	10	5					10	5
	理学療法		3						3	
	作業療法	1	2	2					2	2
	計	4	15	7					15	7
山形県立米沢栄養		1								
東北農林専門職							1			1
釧路公立			1				2	1	3	1
青森公立			1	5					1	5
群馬県立女子					1					
青森県立保健			1	1		1			1	2
岩手県立			5	3	6	1	1	1	12	5
宮城			2	2	4	1			6	3
秋田県立				4	4	3			4	7
下関市立							1		1	
高知工科			1		1				2	
茨城県立医療				1						1
前橋工科				1						1
高崎経済			3		2		4		9	
富山県立				1						1
静岡県立				1						1
岐阜薬科							1		1	
広島市立				1						1
神奈川県立保健福祉			1						1	
滋賀県立						1				1
都留文科		1	3				4		7	
周南公立				1						1
島根県立			1						1	
長岡造形			1						1	
尾道市立			1						1	
計		6	36	28	18	7	13	3	66	38

総計	前期	後期	中期(別日程)	計
国立	今年	63	50	113
	昨年	34	35	73
	一昨年	62	43	105
公立	今年	36	18	72
	昨年	28	7	43
	一昨年	32	17	58
合計	今年	99	68	185
	昨年	62	42	116
	一昨年	94	60	163

大学名	推薦合格	別日程	
		今年	昨年
国際教養			2
新潟県立		4	3
芸術文化観光専門職		1	
計		5	5

国立大学出願者数 113名
公立大学出願者数 72名
(推薦出願者を除く)

国公立大学出願者数報告

Q. 学校生活において、心がけていたことは？

A.

- ・休まず学校に行く
- ・人と接する時は、相手の気持ちを考え発言すること
- ・自分が与えられた仕事に、責任をもって取り組むこと
- ・物事の優先順位を考え動くこと
- ・欠席しないようにした
- ・提出物は必ず出すようにした
- ・迷ったらやる！！
- ・体調管理
- ・返事、あいさつ、気持ちを明るく保つこと
- ・相手との正しい関わり合いを意識して、謙虚にいること

Q. 後輩へのアドバイス

A.

- ・最後まで諦めず頑張って！
- ・自分になりたいものや興味のあるものに合った学校などを選び、夢に向けてがんばってください！！
- ・面接の直前まで、合格後イメージし、不安にならないようにした
- ・前日までやれることはやる
- ・自分や周りの人を知れるチャンスと思い楽しむ
- ・正直、受かった後が一番しんどいが、自分の軸を信じて保っていくことが大切
- ・公務員試験に向けて、どれだけ勉強するかは個人によるが、それより自分が学校で何をして、何を意識したかわかることが良い（自己理解）
- ・面接で話す一言一言に自分が表れ、その自分というのは、日々の生活と直結していると思う



Q. 試験はどんな内容？

A.

- ・グループ面接
- ・学科試験
- ・面接（質問内容について：専門的なことより、日常に関する質問が多かった。1対3。志望理由。長所短所。自己アピール。最近興味を持ったこと。将来やりたいこと。高校生活で頑張ったこと。専門学校についての意見。趣味について。周りからどういう人だといわれるか、等）
- ・作文（テーマ「本校で頑張りたいこと」）
- ・高卒程度の一般公務員試験、教養試験
- ・作文

Q. 特に力を入れたものは？（教科・委員会・部活動等）

A.

- ・部活動（自分なりに、チーム全体や個人で強くなれる練習メニューを考え取り組んでいた）
- ・自分の苦手なものを中心に取り組んでいた
- ・部活で習ったことを覚えて、自分の力にできるようにした
- ・解らないところを質問して、1人でも解けるようにした
- ・自分が楽しいと思った教科
- ・部活動（「強くなりたい」と思って取り組んだ）
- ・部活動で、聞き取りやすい朗読ができるよう何度も練習した
- ・映像作品の脚本、撮影
- ・部活動で関わる方々との接し方や立ち振る舞い
- ・委員会で、自分に出来ることを考え行動すること
- ・集団での生活を意識して過ごす

未来への扉

@就職・専門学校

みんなの前には、たくさんの扉があります。就職・専門学校への扉を開けた3年次生に突撃！6つの質問！！

Q. その職業・分野を志望した理由は？

A.

- ・将来に不安を感じている人の気持ちを少しでも和らげたいから
- ・将来看護師となり、社会貢献したいから
- ・自分が好きなものを、自分で作ってみたいと考えたから
- ・将来働く時に、最も楽しめると考えたから
- ・「美容」という分野を通じて、たくさんの人に自信をもってもらえるようにお手伝いがしたいと考えたから
- ・誰かのためになる、人を助ける仕事があったから
- ・生活の安全を守り、信頼される人間になりたかったから
- ・その職業に憧れていたから

Q. その就職先・学校に決めた決め手は？

A.

- ・大学と同等の資格が取れ、国家試験の合格率が100%だったから
- ・自分の興味のある分野について、深く学ぶことができる場だったから
- ・オープンキャンパスに行き、自分に合っていると思ったから
- ・学校や先生方を見て、ここで学びたいと思ったから
- ・学校の設備が、最も最先端だったから
- ・先生や先輩と話やすく、わからないことは聞きやすい雰囲気だったから
- ・様々な技術を総合的に学べるから
- ・国家試験合格に向けて、個人に寄り添って指導してもらえるから
- ・地元で働きたいから
- ・地元だからこそ、働きやすいと思ったから

《後輩たちに伝えたいこと》

「大学受験」

須貝 寧音

この度は、このような場に私の文章を掲載していただけることを大変うれしく思います。私は、寒河江高校で色々な人と出会い、様々な経験をすることができました。特に、大学受験の経験はこれからの私の人生に大きく活かせると思います。受験対策なども含め、私が大学受験を通して経験したことを伝えます。

私は、小論文・面接を利用する学校型推薦に挑戦しました。理由は、学力では測り切れない私自身の人間性や志望校に対する熱意を直接アピールしたかったためです。ここで重要だったのが、入試前に提出する志望理由書と面接です。面接では、志望理由書をもとに、自分が志望校のポリシーにあった人間なのかを判断されます。なので、まずは志望校のパンフレットをしっかりと読み、把握することが大切です。志望理由書には、自分が将来何をしたいか、それを叶えるために志望校で何を学びたいかなどを書きました。自分が学びたいことが志望校のポリシーに合っているということを伝えることを意識しました。面接では、事前にいくつか質問を予想して伝えたいことを箇条書きでノートにまとめました。ここでまとめた受け答えを丸暗記してしまうと、予想した問題と似ているけど違う質問が来た時に焦ってしまうので注意です。担当の先生との練習だけでなく、友達と練習しあったり、担当でない先生に頼んで練習したりしました。面接本番では、待機時間が二時間くらいあり、ずっと不安だったり緊張したりしました。だけど、いざ面接官の前に座って話すとなったとき、思っていたよりもスラスラ話すことが出来ました。ですが、入室時は緊張しすぎ、退出時は安心して気が抜けてしまってお辞儀などのマナーを忘れてしまいそうになります。実際、私はお辞儀をしたかどうか覚えていません。だから、直前まで頭の中でコミュニケーションしておいたほうがいいと思います。

志望理由書や面接では、MTでの活動内容を多く活用しました。私は、二年次、三年次での活動が志望分野だったのでアピールポイントを増やすことが出来ました。面接のときに話が広がり、自分のしたいことに繋げて話すことが出来ました。

大学受験を通して、精神的・肉体的にも大きく成長することが出来ました。受験に向けての準備は早ければ早いほどいいので、頑張ってください。応援しています。